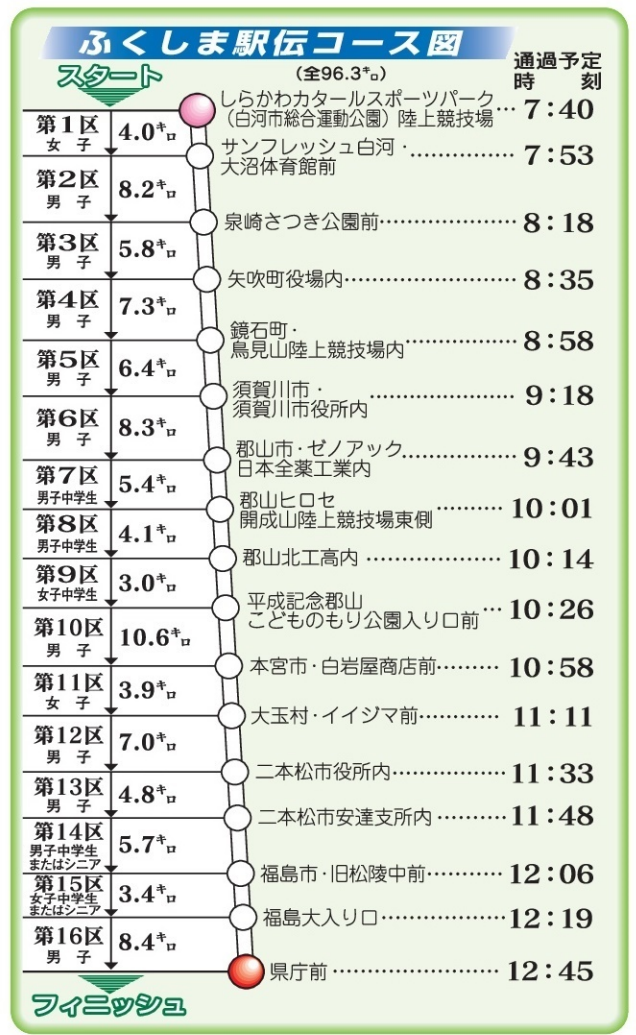


57市町村51チーム出場

来月16日第37回ふくしま駅伝

11月16日開催の第37回市町村対抗県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）

には57市町村の51チームが出場する。例年と同様に三島、金山、檜枝岐、湯川、昭和、川内、葛尾の7町村で構成する連合チーム「希望ふくしま」の出場、北塩原村は「特別出場」となる見通し。10日、本宮市のサンライズもとみやで参加市町村監督会議を開き、大会の概要を確認した。北塩原村は女子区間の一部に出場条件を満たす選手がいなかったため、代わ



りに条件外の選手が出場できる。東京電力福島第1原発事故に伴う被災市町村などに向けて設けられた特例措置に準じ、特



あいさつする根本会長

熱中症対策をはじめ、近年の温暖化傾向を踏ま

例的に出場が認められる。チームとしての成績は表彰対象にならないが、対象外の選手が走る区間を除き、正規ルールに基づいて出場した残りの区間の個人成績は区間賞の対象となる。

10日の会議では、主催する福島陸協の根本寿美会長と福島民報社の鎌田喜之助取締役事業担当、共催するラジオ福島の鈴木啓輔編成局長、テレビユー福島の吾妻康弘報道制作局専門局長兼郡山報道部長があいさつした。

えたランナーの体調管理のため関係車両に「救護車」を加える方針。最長区間の10区（10・6km）と、気温上昇が懸念される最終区間の16区（8・4km）には給水所の設置を検討している。

大会は白河市のしらかわカタルススポーツパーク（市総合運動公園）陸上競技場から福島市の県庁前まで、全16区間（96・3km）でタスキをつなぐ。